

民族解放をもたらした金日成主席の業績

ネパール先軍政治研究文学フォーラム委員長

シャンケル・バーラティ

朝鮮は日本の植民地支配のため数限りない難関と苦難を経験したが、朝鮮人民は帝国主義者と反動どもに反対して勇敢に戦いました。

朝鮮人民はこの闘争を勝利に導く勇敢で賢明な指導者を待望しました。

チュチュ1（1912）年4月15日、金日成主席の生誕によって朝鮮人民は勇敢で賢明な偉大な指導者を迎える幸運に恵まれました。

金日成主席は、ご一家のみんなが国と人民の自由と独立のために骨肉をもためらうことなく捧げうる覚悟ができている愛国的家庭でお生まれになりました。

幼い金日成主席は尊父が残した二挺のピストルを康磐石お母さんから譲り受けました。その二挺のピストルは尊父が残した遺産でした。金日成主席は「志遠」の思想を体し、国の自由と独立、自主権を取り戻すため帝国主義者と反動どもに反対する闘争を始めました。

民族の解放は金日成主席が組織指導した抗日武装闘争の賜物がありました。

1905年、朝鮮を占領した日本帝国主義者は朝鮮民族を抹殺するために狂奔しました。日本帝国主義者は朝鮮人民からすべての政治的自由と権利を奪い、民族解放運動を弾圧しました。

朝鮮人は日本法律に服従するか、それとも死なねばならないというのが日本の論理でした。その結果、朝鮮人民は気ままに母国語でしゃべることもできず、ひいては名前も日本式に変えなければなりませんでした。

日本帝国主義者が作り上げたあらゆる悪法と多数の条約、協定は、朝鮮人民を奴隸のように手足を縛り、彼らの初步的な生存の権利を奪いました。

幼年時代から亡国の悲しみを抱いて成長した金日成主席は奪われた祖国を取り戻す大志を抱いて革命の壮途に就きました。

武装した敵は武装でもって立ち向かわなければならないという鉄の真理を肝

に銘じ、主席は1932年4月、朝鮮人民革命軍を創建し抗日武装闘争を展開しました。

抗日遊撃隊員たちは国家的な後方や正規軍の援助もなく、肌をさす寒さと日常の飢餓に耐えながら100万の関東軍と戦いました。

その日々に、金日成主席は愛する母堂と弟、そして苦楽をともにした同志をなくす胸痛む悲しみと苦痛を体験しました。

しかし金日成主席は自身の悲しみと苦痛より、外国勢力に踏みにじられた国と人民の運命を先に思いながらそれらの難闘に耐え抜きました。

金日成主席はいつも機敏な戦術で日本帝国主義侵略者に恥ずべき惨敗を与えました。朝鮮人民は敵に対する憎悪心を抱いて日本帝国主義に反対する聖戦に立ち上りました。

1945年8月9日、金日成主席は朝鮮人民革命軍部隊に祖国解放のための総攻撃命令を下しました。日本帝国主義者は8月15日、無条件降伏を宣言しました。

朝鮮の解放は朝鮮人民の運命開拓において根本的転換をもたらした歴史的な出来事でした。

祖国解放の歓喜は朝鮮人民を新しい民主朝鮮建設運動へと呼び起こしました。

その時から朝鮮民主主義人民共和国は、いささかの滯りもなく偉大な力を持って帝国主義者と反動どもに立ち向かいながら力強く前進してきました。

朝鮮民主主義人民共和国は今、いかなる強大国も手出しできない鉄の柱のようにたくましく立っています。それはほかならぬ金日成主席の貢献と指導、賢明さの賜物です。